







風速が10m/s以上（10分平均）の風が吹いた場合、クレーン作業や高所作業は法律（クレーン則第31の2及び第74条の3（強風時の作業中止））に基づき**中止**が原則。
現場の「吹き流し」が水平に近く激しくなびく状態（風速5m/s～10m/s以上）は危険信号であり、速やかに作業を停止して安全確保（荷の降下、安全な場所への退避）を行う必要がある。

吹き流しの角度による 風速の目安

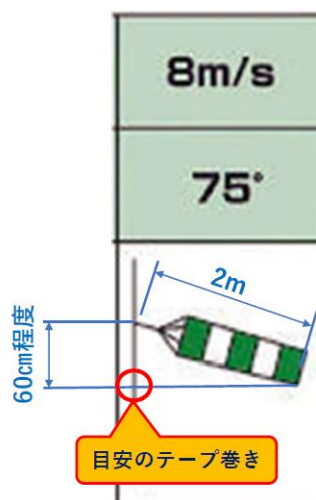
クレーン作業を安全に行うために吹き流しを設置し、風の方向・遊泳角度により風速を判断し、作業を中止するか中断するかを決める目安にしてください。

クレーン則31条の2条及び74条の3（強風時の作業中止）
事業者は強風のため、クレーン（移動式クレーン）に係る作業の実施について、危険が予想される時は当該作業を中止しなければならない。（強風とは、10分間の平均風速が10m/s以上の風をいう。）

●風速による傾斜角度及び遊泳状態

風速 (m/s)	4m/s	6m/s	8m/s	10m/s	12m/s	14m/s
傾斜角度	45°	62°	75°	78°	80°	83°
遊泳状態						

GEW-21



梅雨に入り、豪雨や土砂災害などの自然災害が発生する時期です。

大雨や強風の際には十分に警戒し、日頃からの安全管理、機械や資機材の点検整備を徹底し、迅速で的確な対応が出来るようにしましょう。